

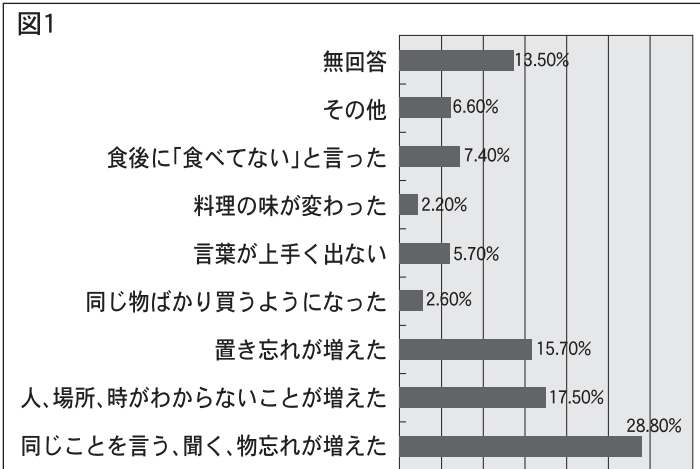
地域で認知症の本人と家族が 安心して暮らせるために

認知症介護家族のアンケート調査より

調査件数 218件
回収率 55.5%

① 最初の受診について

「認知症の疑いを感じた症状」は、「同じことを言う・聞く、もの忘れが」



増えた」「人、場所、時間がわからないことが増えた」「置き忘れが増えた」が過半数でした。(図1)

*「症状に気づいてから受診までの期間」は「1年以上経ってから」が約1割となっており、早めの受診を勧める必要があります。

② 介護への協力者

「同居以外の親族、ご近所の協力」は「親族の協力がある」が約4割でした。

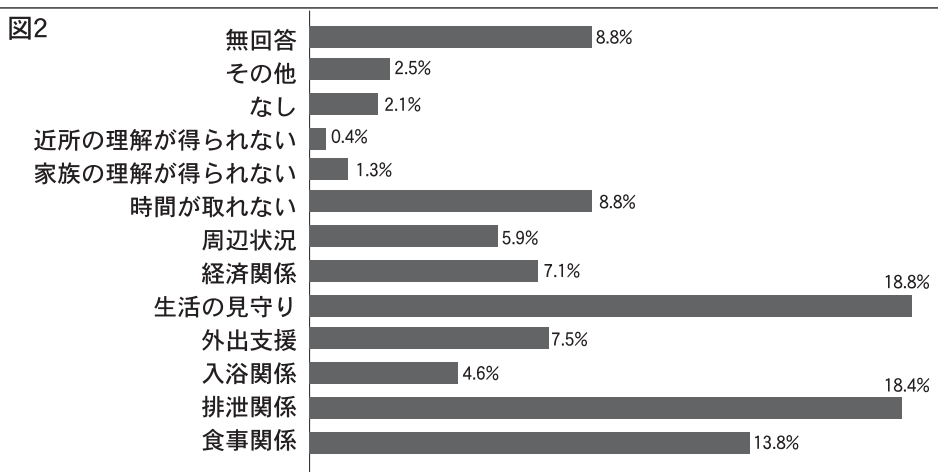
*多くの家庭では介護サービスを使って家族のみで介護をされています。

③ 介護の負担

「介護で負担に感じることを伺ったところ、「排泄」や「食事」などの介護が約4割、「生活全般の見守り」

や「自分の時間が取れない」が約3割でした。(図2)

*家族が介護に合わせて生活をしていることが分かります。

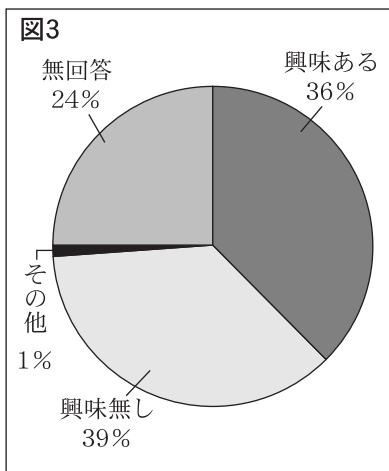


④ 家族支援

介護を続けるために、介護サービス以外に「不安な気持ちを受け止め

てくれる人、場所」を希望される方が約1割でした。

*介護家族の支援や交流する機会として家族会の開催が挙げられました。「家族会に関心がある」が約4割でした。(図3)



○ 調査結果から

・南部町では介護している家族を気持ちの面でも支えるため、介護者家族会の設立を検討しています。

・認知症は早期発見・受診が大切です。健康福祉課では地域に出掛け、認知症のチェック方法などを紹介しています。

気になることがある時は「かかりつけ医」「西伯病院のもの忘れ外来」「町の保健師」にお気軽に御相談ください。